

# B1 レベルの学習者を対象とした オンライン読解授業の実践事例

## The Practice Case of Online Japanese Reading Course for B1-Level Students

中 野 久美子  
NAKANO Kumiko

### キーワード

[CEFR] Common European Framework of Reference for languages

[JF 日本語教育スタンダード] The Japan Foundation Standard for Japanese-Language Education

[交換留学生プログラム] International exchange program

[オンライン日本語授業] Online Japanese course

[読解] Japanese reading comprehension

### I. はじめに

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、他大学同様、龍谷大学でも昨年度 2020 年第 1 学期（4 月～7 月）より、原則全ての授業でオンライン授業の全面実施がなされた。本稿は、2020 年度第 1 学期において行われた交換留学生を対象とした日本語プログラム、「Japanese Experience Program in Kyoto（以下、JEP）」の JEP4 読解のオンライン授業を振り返り、その実践内容や方法、そして、その成果と課題についての報告を行うものである。

### II. コースの概要

#### 1. JEP の概要

JEP は、2015 年から新たに開始した、交換留学生を対象とした日本語プログラムで、現在、JEP2 から JEP6 までの 5 クラスが開講されている。交換留学生は、基本的に自国の大学で日本語を学んでから、龍谷大学に半年または 1 年間留学して、日本語を学ぶという学生達である。JEP はヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for languages 以下、CEFR）/JF 日本語教育スタンダード（以下、JFS）の理念に賛同し、それらを参照してプログラムが設計されているため、レベルも同じように参照・設定されている。JEP の理念・開発・経緯などについては、小松・福田（2016）と三原（2018）に詳しく述べられているので、そちらを参照いただきたい。

表1 JEP クラス一覧

| クラス  | クラス開始時の学生のレベル | 到達目標 |
|------|---------------|------|
| JEP6 | B2 ～          | B2.2 |
| JEP5 | B1.2          | B2.1 |
| JEP4 | B1.1          | B1.2 |
| JEP3 | A2.2          | B1.1 |
| JEP2 | A2.1          | A2.2 |

## 2. シラバス

JEP のプログラムは、その設計のもととなる理念の中の1つ、行動中心主義の観点から、各科目において目標を Can-do の形で示し、「目標－授業活動－評価」の一貫性を意識した授業を運営している（小松・福田 2016）。

JEP4 の到達目標は、表1 のとおり CEFR/JFS の B1.2 である。JEP4 読解では、CEFR と JFS <sup>(1)</sup> の中から、読むことに関する Can-do 項目を参照の上、自己評価表を作成し、学生に学期開始時・終了時の2回、項目ごとに現在のレベルに当てはまる数字（1：できる、2：だいたいできる、3：あまりできない、4：まったくできない）を入力させた。その結果については、IV章にて詳しく述べたい。

表2 JEP4 読解 自己評価チェック表（到達目標：B1.2）

|   | Can-do                                                                                                                                                                                                                                                     | カテゴリー                 | レベル  |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------|
| 1 | 簡単でわかりやすい事実関係のテキストで、自分の専門分野や興味のあるものは、十分に主題を理解できる。<br>Can read straightforward factual texts on subjects related to his/her field and interest with a satisfactory level of comprehension.                                                                  | CEFR122<br>読むこと全般     | B1   |
| 2 | 必要な情報を見つけるために長いテキストにざっと目を通し、テキストのさまざまな部分や別のテキストから、特定の課題遂行のための情報を収集できる。<br>Can scan longer texts in order to locate desired information, and gather information from different parts of a text, or from different texts in order to fulfil a specific task. | CEFR158<br>必要な情報を探し出す | B1.2 |
| 3 | 簡単なセリフで書かれていれば、マンガを読んで、あらすじを理解することができる。<br>Can read and understand the plot of a comic, if the dialogue is written in simple terms.                                                                                                                        | JF163<br>情報や要点を読み取る   | B1   |
| 4 | 自分の関心や専門に関連するテキストの中で、なじみのない語彙の意味を文脈から推測できる。<br>Can identify unfamiliar words from the context on topics related to his/her field and interests.                                                                                                            | CEFR338<br>意図を推測する    | B1   |

読解は毎週火曜の週1回90分だけであるが、学生は月曜から金曜まで週5日、JEP4の様々な日本語の科目を受講している。今回、急遽全科目がオンライン授業に変更となったため、学期開始当初から、学生は各担当の教員からの連絡メールや課題などが毎日のように届き、混乱している様子であった。そのため、読解では、学生の負担を極力減らしたいと考え、予習・課題・クイズは基本的に無しとし、授業が終わった後に、その復習をすることだけを宿題として課した。また、その成果をはかるため、中間・期末の定期試験を2回実施することとした。

成績の評価方法は、2回の定期試験（中間・期末）を合わせて60%、平常点（課題・授業の参加度など）を40%の計100%で設定した。対面授業を行っていた際は、試験問題は授業で扱った同じ教材を使い、少しアレンジした問題を出題していたが、オンライン授業では、授業で扱った教材と同じようなテキストタイプや形式ではあるが、学生にとって初見の教材を使った問題を出題することにした。そして、目標のCan-doができたかどうかを測れるような問題を作成した。記述問題については、文法・語彙・表記などの配点は低くし、内容理解を重視した配点にして採点を行った。

### 3. スケジュール

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、3月中旬頃から大学において危機管理対策本部が立ち上げられ、2020年第1学期の授業をどのように実施するかが検討された。その結果、3月下旬には大学から、「教室での授業開始は4月7日からの予定であったが、4月21日に延期することとし、延期期間の学修時間の確保のため、課題や補講等にて柔軟に対応するように」との連絡があった。その予定に従い、授業準備を進めていたのであるが、4月8日に大学から、「4月21日からの教室での授業開始は困難と判断したため、全ての授業をオンライン授業として全面実施することに決定した。準備期間を経てから、5月11日には全学で実施する」という連絡があり、予想外の展開に教員間に動揺が走った。その後、何とか準備を進め、JEP4読解の授業は、4月28日に初回を迎えることとなった。

授業回数は通常全15回行われるのであるが、今回は変則的に、授業は13回とし、あとの不足の2回分は初回の授業開始前と、ゴールデンウィーク中に課題を課すことで補った。

表3 JEP4 読解 コースの流れ

| 授業回数   | 授業内容                    |
|--------|-------------------------|
| 1回目    | オリエンテーション・自己評価チェック（1回目） |
| 2～7回目  | 読解活動                    |
| 8回目    | 中間試験                    |
| 9～12回目 | 読解活動                    |
| 13回目   | 期末試験・自己評価チェック（2回目）      |

### 4. 受講した学生の情報

JEPクラスを受講する交換留学生は、アジア・ヨーロッパ・アメリカ・オセアニアなど様々な国や地域から来ているが、今回は2名ともヨーロッパ出身であった。今回、新たな交換留学生を受け入れないことが決定されたため、その結果、受講生は全員、先学期（2019年度第2学

期)からの継続生であった。通常のクラスの人数は10名前後になることが多いので、今回は異例の少数クラスとなった。2名とも、留学期間は1年で、どちらも同じ留学生専用の大学寮に滞在していた。先学期はJEP3クラスであったが、学期開始前のプレイメントテストにより、2名ともJEP4クラスとなった<sup>(2)</sup>。先学期同じクラスだったこともあり、すでに関係ができていたため、オンライン授業でも、学生同士がコミュニケーションを取りにくいということにはなかった。

表4 学生の情報

|    | 出身地  | 性別 | 専門         | 先学期の<br>クラス | 日本での<br>滞在歴 | 居住地      |
|----|------|----|------------|-------------|-------------|----------|
| S1 | ドイツ  | 男  | 東アジア研究・日本語 | JEP3        | 半年          | 日本(大学の寮) |
| S2 | スペイン | 女  | 東アジア研究・日本語 | JEP3        | 半年          | 日本(大学の寮) |

### Ⅲ. オンライン授業の実施内容

#### 1. 学期開始前の準備

Ⅱ章で述べたとおり、大学からオンライン授業全面実施の連絡が来た際は、何に手を付ければよいかわからない状態であった。自分自身、対面授業をしていたときは、教室で動画やパワーポイントなどをプロジェクターで映す程度しかICT機器を使用することがなく、また、大学ではコロナ禍以前から学習管理システム(Learning Manage System, 以下LMS)のmanaba(株式会社朝日ネット)を導入していたが、ほとんど使用することがなかった。他の日本語担当教員にも本格的にICTを授業に活用している人がほとんどいなかったため、急遽JEP4,5,6クラスを担当している教員が集まり、オンライン授業に向けての勉強会を行うこととなった。大学からは、双方向同時通信の授業を実施するよう指示されていたので、Google MeetとZoomを使って「お試しミーティング」を行い、それぞれの機能を使用し、確認し合った。一方、大学においても、情報メディアセンター主催の研修が開かれ、また、それに参加できない教員向けに、ポータルサイト内から研修の動画の視聴も可能で、サポート体制も十分整備されていた。それらを活用し、試行錯誤をしながら、個人的にも何回か他の教員とミーティングを重ね、授業準備を行った。教材も、従来のように紙媒体のものが使用できないため、オンライン用に新たに作成するなど、限られた期間の中で手探りの模索が始まったが、結果的に何とか初回の授業を実施できるまでにいった。

#### 2. 使用したツール

オンライン授業で使用したツールは、manabaとGoogle DriveとZoomである。使用した理由として、manabaは先述したとおり、LMSとして本学でコロナ禍以前より導入されており、毎学期、情報メディアセンターにより、科目ごとに受講者の登録などがあらかじめされていて、サポート体制も整備されているということ、そして、テストやアンケート作成などに使える機能が多彩で、活用しやすいと考えたことが大きい。しかし、その一方で、manabaは大学などの多くの機関で使用されており、今回のコロナ禍によるオンライン授業への移行が増加し、ア

クセス集中に伴ってファイルダウンロードなどに時間がかかることが報告された。その負担分散のため、Google Drive の使用を情報メディアセンターから依頼されたことから、授業の資料などの保存は、Google Drive を使用することとした。大学から付与されている学生と教員用のメールアドレスは Gmail を使用しており、それにより Google 社が提供する「G Suite for Education」のサービスも使用できること、ビデオなど容量の大きいファイルも保存できることなどが利点だと考えた。国によっては、Google のサービスが使えないところもあるが、今回は日本国内での使用であったので、問題もなかった。そして、授業には双方向同時通信が可能な Zoom を使用した。また、学生への連絡は主にメールであったが、その他に LINE のグループチャットを補助的に使用した<sup>(3)</sup>。

### 3. コースデザイン

今回が初めてのオンライン授業となったため、どのように授業を行っていくか、かなり頭を悩ませた。久保は JEP4 読解を担当した 2016 年 4 月から 2019 年 1 月までの分析を行い、受講生の学習の目的や要望は個々様々であるが、一方で京都の龍谷大学で学ぶという共通点があることと、JEP プログラムの目的に焦点を当て、コースデザインを行った（久保 2019：pp.24-27）。本来であれば、それを踏襲してコースデザインを行いたかったのであるが、コロナ禍の中、学生が人と接することや、外出がほとんどできず、アルバイトも一時的に休止されていたため、サークル活動・観光情報・アルバイト求人などといった題材を扱うことは難しかった。

学期開始時に学生にアンケートを実施し、これまで使用したテキスト・興味のあること・専門分野などについての回答を得た。また、「今学期、読解の授業でどんなことができるようになりたいか、自分の目標は何か」という質問には、「色々な漢字は難しいです。書くのは読むのより下手です。だから、そういうことを（ママ）上手にできるようになりたいです。」「読書が好きなので、どんな本でも読めるようになりたいです。また、漢字力を伸ばしたいです」という回答であった。できるだけ学生の要望を取り入れ、様々な読解練習を行う中で、最終的に目標レベルに到達できるよう、コースの流れを考えた。次節から、具体的な活動について述べてみたい。

### 4. 読解活動について

オックスフォードは、認知ストラテジーで 4 技能を伸ばすためには、「自然の状況の中で練習する」ことが効果的であり、読解については手に入りやすい教材（新聞・雑誌・メニュー・広告・パンフレット・マンガ・大学の学校案内など）を使用することがよく、特に学習者の興味は何であるかを知り、その興味に合った教材を与え、活動することが大切であると述べている（オックスフォード 1994：pp.72-74）。そのことに留意しつつ、教材を選び、活動を行った。2 名とも漢字が苦手であったため、基本、本文や問題には全てルビを振るようにした。

以下、今回行った読解活動の中からいくつか取り上げ、具体的な活動例を紹介する。

#### (1) コロナ禍の中で役立つ情報

日本語の熟達者でない学習者にとって、海外において今回のような緊急事態が起こった不安定な状況下で、必要な情報が得られないということは、大きなストレスになると考えた。そのため、学生にとって、できるだけ有益な情報も得られる内容のものを扱おうと心がけ、教材作

成に取り組んだ。

#### (a) ニュース記事「スーパーで感染を防ぐには？」

(琉球新報デジタルサービス 2020年5月1日 15:51 掲載)

2022年現在では、コロナ禍も3年目に突入し、感染予防をしながらの新しい生活様式が自然に身についてきているが、2020年に感染拡大が始まった頃は、未知のウィルスに対して、どう対応していいかわからない部分も多くあった。そのような中、学生に「混雑を避け、感染予防に気をつけながら安全快適に買い物ができる方法」を知ってもらいたいと思い、この記事を取り上げた。わかりやすい図とともに、気をつける点がまとめられていたので、それをもとにパンフレットの形に変え、問題を作成した。

#### (b) パンフレット「熱中症予防×コロナ感染防止で新しい生活様式を健康に！」

(環境省・厚生労働省 令和2年6月作成)

龍谷大学が位置する京都市は、盆地ということもあり、夏はかなりの猛暑となる。コロナ禍においては、常にマスクを着用しなければならないため、感染症と熱中症を両方うまく予防できないものかと考えていたところ、このパンフレットをインターネット上で見つけたので、これをもとに問題を作成してみた。

実は、読解の授業がある同じ日にJEP4視聴解の授業も担当していたので、視聴解でも熱中症予防に関する動画<sup>(4)</sup>を使って練習を行っていた。同じトピックであるので、2つの科目で共通する語彙や表現などを使いながらも、動画とパンフレットという異なる教材を使用し、様々な技能を伸ばす練習を行うことができた。関・香川は4技能を統合した中上級のオンライン読解授業を行い、その結果、4技能だけでなく、日本語知識や発表・思考・コミュニケーション能力ともに上達したと述べている(関・香川 2021:p.171)。このトピックをとおして、読解と視聴解の2科目を担当していることを利用し、2科目を切り離すのではなく、連携した活動を行うことで、いくつかの技能を同時に向上させることができるのではないかと考える契機となった。

#### (2) JFS 読解活動集

国際交流基金が運営する「みんなの教材サイト (<https://minnanokyozai.jp>)」は、ユーザー登録をすれば、教材の無料利用や、新たな教材作成、そして、教師間での交流やアイデアの共有もできるサイトである。その中の「JFS 読解活動集」には、現在 A1, A2, B1 レベルの読解教材が掲載されている。それらは、JFS に準拠した現実社会での課題遂行のための読解教材として、できる限りレアリアを用い、また、異文化理解や相互理解を重視し、学習者同士が理解し合える楽しい活動を提案する、という方針で開発されたものである。様々なテキストタイプ(ブログ・ウェブサイト・詩・メール・パンフレット・雑誌・新聞記事など)があり、ニーズに合わせて使用できる。今回はクラスのレベルに合わせて、B1 の読解教材を使用した。その特徴としては、テキストタイプが一定の長さを持ったテキストが中心になること、そして、ひとつあたりの文章の長さが1000字超になることなどである(羽吹他 2021)。

また、PDF 版と Word 版があるので、そのままプリントアウトできるほか、必要に応じてアレンジすることも可能である。その上、何よりありがたいのは、著作権<sup>(5)</sup>を気にせずに使

用できるため、対面授業はもちろんであるが、特にオンライン授業において活用しやすいことだ。

サイトに掲載されている活動の流れとしては、①準備（ブレインストーミング）⇒②読む（実際に自力で読んで、タスクを行う）⇒③発展（異文化理解や相互理解に発展する活動を行う）⇒④自己評価（それぞれの目標 Can-do が達成できたかをチェック）というものであったが、時間の関係で①②までしか進めず、③を省くことが多かった。Ⅱ章で述べたとおり、表2の自己評価チェックを学期中に2回実施するため、④もそれぞれの活動ごとには行わなかった。

以下、今回使用した B1 レベルの読解教材をいくつか紹介したい。

#### (a) 「ペットの気持ちを書いた詩を読む」

「犬の十戒」という英語の詩を日本語に訳したものを読んだ大学生が、子どもの頃に飼っていた犬のことを思い出すという内容で、「他者の感情や希望することを読み取る」ことが目標である。学生は2名とも、ペットを飼っていたので、感情移入しやすいようであった。詩であるため、日常では使用しない語彙や表現が多かったが、まずは何も調べない状態で内容を予測しながら読ませたところ、少しずつではいたが、大体的内容は把握できていた。後で語彙や細かい内容などの解説をすると、より深く内容理解ができていた。なかなか日本語で自分から詩を読むことはないの、詩に親しむいい機会となったのではないだろうか。

#### (b) 「留学についての相談のメールを読む」

海外のある国に住んでいる日本語学習者が、日本に留学しようかどうか悩んでおり、その国の日本企業に勤務している日本人の友人にメールで相談するという設定で、そのやりとりを読む活動である。今学期は全てオンライン授業となっていたが、すでに日本に留学している学生にメールを読ませ、この相談者にどうアドバイスすればいいか、また、自分は留学してみてもどうだったかの意見なども書かせるタスクを行った。解答を見ると、2名とも留学するメリットとデメリットを踏まえ、相談者に親身になってアドバイスを書くことができていた。

#### (c) 「AI の可能性について書かれた雑誌記事を読む」

この文章は丁寧体で、文法もそれほど難しくないものを使用して書かれているが、日常会話では使われない硬い語彙が多く、この「B1 読解活動集」の中でも、難易度は中級後半に位置している。少し難しすぎるのでは、と思ったが、目標である「筆者の重要な考えと、それを裏付ける事例の説明を的確に理解すること」ができていた。また、複数の仕事を「人工知能に任せられる仕事」と「人間がしなければならない仕事」に分けるという問題があったが、それをどんな理由で分けたかということと、この文章を読んだ意見・感想についても自分の言葉でうまく述べられていた。

#### (3) マンガ

マンガは言わずと知れた日本文化を代表するものであり、日本の文化背景・習慣・風俗などを視覚的にわかりやすく知ることができるだけでなく、登場人物の心情などを読み取る練習にも活用できるため、いい教材になりそうだと以前より思っていたが、実際、取り上げたことはなかった。

今回、学期開始時の学生へのアンケートで、「教科書以外でどうやって読む練習をしているか」を聞いたところ、1名が「マンガを読んでいます」、1名が「もう見たアニメをもう一度見たり、ゲームを日本語にしてやったり（中略）」という回答であったので、興味を持って活動に取り組んでもらえると確信し、今回マンガを使用した教材を作成することにした。

長いストーリーだと、うまく場면을切り取らなければ前後の文脈がわからず、読み取るのが難しいと考え、今回は A4 サイズ 1 ページで完結するものを選んだ。また、もしマンガに興味を持った場合には、今後、いつでもどこでも気の向いたときに無料でスマートフォンやパソコンから読めるように、ウェブマンガを取り上げてみた。偶然、どちらも猫が登場するマンガとなってしまったが、学生は親近感を持って読めたようだ。

#### (a) 『鴻池剛と猫のぼんた ニャアアアン!』（鴻池剛 2014）

この漫画は、タイトルのとおり、作者である鴻池剛と飼い猫のぼんたの日常を描いたエッセイマンガである。今回は「誤解」という話を取り上げてみた。部屋の模様替えをしている最中に、不安定な場所から猫が落ちてしまい、パニックになる場面で、擬音語・擬態語が効果的に使われていたので、どんなときに、どんな意味で使うか絵を見て推測する問題を作成してみた。やはり、日本特有の擬音語・擬態語はすぐには理解が難しい様子であった。

#### (b) 『夜廻り猫』（深谷かほる 2017）

『夜廻り猫』は、「泣く子はいねが（いないか）」と、毎晩夜廻りをする猫、遠藤平蔵とその仲間たち（猫の他、カエルやタヌキなども登場する）が、出会う人々を次々と癒していくという、人情マンガである。今回は第 35 話「赤の他人」という話を取り上げてみた。まず語彙リストなど何も見せずに読んでみて内容を考えさせてから、2 回目はわからない語彙のみ調べさせ、再度読ませた。1 回目は語彙の意味が大まかにしかわからない状態であったが、すでに登場人物の心情もちゃんと読み取ることができていた。特に、S2 は日常的にマンガを読んでいたことが、理解の助けになったと思われる。その学生には、いつも読んでいるお気に入りの恋愛エッセイマンガを紹介してもらった。

## Ⅳ. 授業を振り返ってその成果と課題

### 1. 学生のアンケート・自己評価チェックの結果

JEP では、学期中に 2 回もしくは 3 回、各日本語科目の授業内で、学生に自己評価チェックをさせることになっている。Ⅱ章で述べたとおり、CEFR と JFS を参照して作成した自己評価表を学期開始時・終了時の 2 回、学生にチェックさせたが、その結果を表 5 にまとめた。

表5 自己評価チェックの結果（2回分）

| ※1回目:授業初日（4月28日） 2回目:授業最終日（7月28日） |                                                                                                                                                                                                                                                            | S1          |             |   | S2          |             |    |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------|---|-------------|-------------|----|
| Can-do                            |                                                                                                                                                                                                                                                            | 1<br>回<br>目 | 2<br>回<br>目 | 差 | 1<br>回<br>目 | 2<br>回<br>目 | 差  |
| 1                                 | 簡単でわかりやすい事実関係のテキストで、自分の専門分野や興味のあるものは、十分に主題を理解できる。<br>Can read straightforward factual texts on subjects related to his/her field and interest with a satisfactory level of comprehension.                                                                  | 3           | 1           | 2 | 2           | 2           | 0  |
| 2                                 | 必要な情報を見つけるために長いテキストにざっと目を通し、テキストのさまざまな部分や別のテキストから、特定の課題遂行のための情報を収集できる。<br>Can scan longer texts in order to locate desired information, and gather information from different parts of a text, or from different texts in order to fulfil a specific task. | 3           | 1           | 2 | 1           | 3           | -2 |
| 3                                 | 簡単なセリフで書かれていれば、マンガを読んで、あらすじを理解することができる。<br>Can read and understand the plot of a comic, if the dialogue is written in simple terms.                                                                                                                        | 3           | 2           | 1 | 3           | 1           | 2  |
| 4                                 | 自分の関心や専門に関連するテキストの中で、なじみのない語彙の意味を文脈から推測できる。<br>Can identify unfamiliar words from the context on topics related to his/her field and interests.                                                                                                            | 2           | 2           | 0 | 1           | 1           | 0  |

1: できる    2: だいたいできる    3: あまりできない    4: まったくできない

この結果から、2名とも1回目より2回目の数値がおおむね上がっている。1の項目については、S1は1回目「あまりできない」から2回目「できる」へ、S2は1回目「だいたいできる」が2回目も横ばいであった。2の項目についても、S1は同様にレベルの向上を感じていたようだった。一方、S2は1回目「できる」から2回目「あまりできない」と2段階も下がってしまったのは残念であったが、恐らく読解活動を行う中で、高く見積もっていた自分のレベルを客観的に分析し、冷静に今のレベルを評価したのではないと思われる。3のマンガの項目ではどちらも数値が上がっている。S1はアニメを見ることがあるが、マンガを読むことはほとんどなかったが、意外に読めることに気づいたのかもしれない。S2は日常的にマンガを読む習慣があったが、授業で読む練習を行ったことで、より読めるようになったと感じたようだ。最後の4の項目は、読むことだけでなく、4技能全てに関わる能力であるが、S1は「だいたいできる」、S2は「できる」と、どちらも横ばいであった。2名とも、日本語学習を行う中で、推測するストラテジーを意識せずに自然に使うことができていたため、学期開始時から終了時まで同じレベルのままであると評価したのではないだろうか。授業開始前のアンケートでは、2名

とも漢字が苦手だと言っていたため、語彙導入の際は、漢字の意味や、単語の語構成から、語彙の意味や使い方の推測ができるようになってほしいと考え、時間を長めに取った。それが推測するストラテジーをより活性化する訓練になったのかもしれない。

自己評価チェックとともに、学期終了時に実施した簡単なアンケートの結果を表6にまとめた。

表6 読解 学期末アンケートの結果 ※学生の回答はママ

|    | 今学期、読解の授業を受けて、できるようになったことは何ですか。                              | オンライン授業でよかったこと                     | オンライン授業で大変だったこと                                                                |
|----|--------------------------------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| S1 | 特別な言葉があっても、内容が分かるようになったことが多かったと思います。それに大切情報を見つけることも簡単になりました。 | テキストのテーマはだいたいいつも面白かったと思います。        | パソコンでテキストを読むと、目や頭は早めに痛くなります。薬を飲んだり、注したりしなければなりませんでした。                          |
| S2 | いっぱい単語を学んで、テキストの中で大切なポイントを見つけることができました。                      | 先生はとても頑張っていたと思います。後、いつも面白いトピックでした。 | オンラインだったので、とても大変でした。目と体に通してということです。そして、私によって、紙の方がもっといいですが、パソコンで集中あんまりできませんでした。 |

アンケートの結果からも、学期開始時に比べ、2名とも読解のストラテジー向上を感じることができていた。読解教材は、できるだけ学生を飽きさせず、楽しみながら、読解のテクニックを使って読む練習ができるように、バラエティに富んだテキストタイプやトピックのものを扱ってみたが、それがいい結果となったようである。S1は、読書習慣があまりなく、最初は文章を読むことに苦手意識が強かったようだったが、回を追うごとに読むことが苦痛ではなくなってきた様子であった。S2はもともと読書やマンガが好きだと言っていたが、マンガを取り上げた回は、特に楽しそうに活動に取り組んでいた。2名とも、様々なことに興味があり、読んだ後に意見や感想を聞くと、常に自分のことばで何とか答えようと努めていた。

先述したとおり、読解の授業と同じ日に、視聴解の授業も担当していたが、その視聴解で実施した学期末アンケートもオンライン授業について述べるために参考になると思い<sup>(6)</sup>、表7にまとめた。

JEP4は学生が2名だけであったが、それがアットホームな雰囲気につながり、いい効果が生まれたと思われる。ブレインストーミング・語彙導入・フィードバック、そして、ちょっとした雑談などが、通常の人数のクラスに比べ、より時間をかけて行うことができた。

実は、Zoomのブレイクアウトルームの機能を利用し、ペア活動させようかとも考えたのであるが、2名のため、毎回同じペアとなってしまう、様々な組み合わせができないため、それぞれ個別に読ませることとした。読解活動においてピア・リーディングが効果的であると言わ

れている（久保 2019：p.33；山本 2021：pp.70-73）ため、毎回ではなく、何回かはペア活動をさせてもよかったかもしれないと後から振り返って考えた。しかし、学生から個別に作業することに肯定的な意見が出たので、結果的によかったのかもしれない。

表 7 視聴解 学期末アンケートの結果 ※学生の回答はママ

|    | 今学期、視聴解の授業を受けて、できるようになったことは何ですか。                                            | オンライン授業でよかったこと                                                                                         | オンライン授業で大変だったこと                                        |
|----|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| S1 | 短い情報おビデオやニュースを理解することはもっと簡単になってきたと思います。また、会話の内容は、全部の単語をしなくても、分かるようになったと思います。 | オンライン授業は、二人の学生しかいませんでしたから、あまり悪くなかったと思います。二人だけだったので、それぞれの問題を取り組んでいました。それに先生はいつも笑っていますから、雰囲気は明るかったと思います。 | パソコンの音は時々変になった時に、CD やビデオを聞くことは難しかったです。                 |
| S2 | 特に、いっぱい新し単語を学びました。                                                          | オンラインだったのに先生はとても頑張っていたと思います。ありがたいです。                                                                   | オンラインなので、インターネットとパソコンの前にいっぱい時間過ぎていたのせいで、ストレスたくさんありました。 |

一方で、オンライン授業でかなりのストレスを感じていたようだった。対面授業に比べると、学生が体調不良を訴える頻度が多いように感じた。身体的には目の疲労や頭痛が慢性的に起こっていると言っており、1名はそれが原因で欠席したことが1回あった。また、2名とも日本語の授業だけでなく、自国の所属大学から課された論文作成や、就職活動・アルバイトなども並行して行っており、毎日様々なことに忙殺されていた。そして、自ら希望して留学をしたとは言え、ヨーロッパの家族とも遠く離れた中、外国（日本）の地で未知のウィルス感染の危険に日々さらされ、外出や友達との交流もままならない状況で、その上、慣れないオンライン授業を受講しなければならないことは、ストレスフルで過酷な状態にあったことは想像に難くない。それに関わらず、2名とも毎回積極的に参加し、頑張っていた。しかも、自分自身大変な状況にありながら、教師に対して労いの言葉を書いてくれた学生2名には、心から感謝と称賛の言葉を送りたい気持ちでいっぱいである。

## 2. 対面授業との比較

次に、対面授業と比較し、オンライン授業のよかった点、困難に感じた点について述べてみたい。

### (1) 読解授業について

京都大学において、日本語科目履修者と担当教員に対し、オンライン授業での日本語能力の上達に関するアンケート調査が実施されたが、その結果によると、オンライン授業を行ったことで、どちらも「総合的に日本語能力が上達した」と答えている（履修者は77.1%、教員は72.7%）。また、履修者に対して行った、「技能別（会話・聴解・読解・作文・表記）に上達したと感じたか」との質問では、特に読解が上達したとの回答が一番多く（84.7%）、その次が聴解（82.3%）との結果となった。その要因としては、どちらも文章や音声を介した内容理解を中心とする受動技能で、対面授業と比較して大差が現れにくいことを挙げている（パリハワダ 他 2021：pp.21-22）。

また、マレーシアのマラヤ大学での調査でも、オンラインの読解授業は対面に比べ「変わらなかった」と回答した学生が最も多く、それに「受けやすくなった」「やや受けやすくなった」回答と合わせると、58.8%に上る結果であったことが報告されている（西村他 2021：p.118）。

今回、実際に読解オンライン授業を実践してみて、国内・海外で行われた両調査と同じような結果であると感じた。会話など非言語要因が大きい授業ではなかったため、オンラインだからといって、読解の能力の向上が見られないということはなかった。学生の自己評価とアンケートの結果からも、学生自身が成果を感じていたことがわかった。

### (2) 教材・ツール

教材については、対面に比べ、準備にかなりの時間を費やした。対面では、テキストなどをコピーし、それをすぐ配布することができるが、オンラインではスキャンしたり、Wordでリライトしたりと、電子化する必要がある。また、対面とは著作権の取り扱いが異なることから、教材の選定に悩んだが、Ⅲ章で述べたとおり、ウェブから無料で使用できる教材・官公庁のパンフレット・マンガなどを使用することで、問題を解決することができた。

ツールについては、今回、定期試験はmanabaの小テスト機能を、自己評価チェックとアンケートはアンケート機能を使用して作成を行ったが、初めて使用したことから、操作が不慣れで、1つ1つ確認しながらの作業であったため、かなり時間がかかってしまった。一方で利点としては、学生が提出したかどうか、すぐに提出状況を把握でき、しかも、確実に回収することができることであった。試験の結果は、manabaに入力された解答をエクセルに変換し、それを採点してから、それぞれ学生にメールで送り、フィードバックを行った。

授業の資料の保存にはGoogle Driveを使用した。毎回「1. JEP4 読解 ○月○日」と、授業回数・科目名・日付を名前にしたフォルダを作成した。授業で使用する資料の保存は、各ファイルをそのフォルダにドラックアンドドロップするだけで簡単にできる。また、そのフォルダを学生と共有するときは、大学から付与されている学生のGoogleアカウントを入力し、共有設定をするだけで済んだので、作業はさほど煩雑ではなかった。

もう1つの利点は、資料の整理である。対面で紙媒体の資料を配布する場合は、学生がそれを各自でファイリングなどして整理することが必要であるが、整理整頓が苦手な学生にとっては、どこに何があるかわからない状況になることがしばしばある。しかし、Google Driveはパソコンやスマートフォン上でフォルダ管理できるため、どこになにがあるか把握しやすい。その上、いつでもどこでもアクセスできることから、移動中の隙間時間などに資料を画面上で見て復習することも可能なので、今の時代に合った、便利で合理的なツールであると思われる。

最後に、Zoom についてであるが、今回使用した機能は、双方向同時ミーティング・画面共有・チャットである。画面共有は、主に活動前に行う説明や、フィードバックのときに問題文や本文を見せるのに使用した。対面と違って板書ができないため、チャットを使ったり、Word を画面共有し、それに書き込んだりして対応した<sup>(7)</sup>。チャットは、ミーティング参加者全員に送ることだけでなく、個別に送ることもできるため、用途に合わせて使い分けることができる<sup>(8)</sup>ことがよかった。

### (3) ストレス・疲労感

オンラインでのストレスや疲労は思った以上であり、学生のアンケート結果からもひしひしと伝わってくる。実際、画面越しから、体調がよくない様子を見ることが多かった。

ストレスの主な要因としては、対面の紙媒体の教材と違い、オンラインでは画面上で本文を見ながら読む活動をしなければいけないこと、日本語をタイプする必要があること、教員や大学からの連絡メール・manaba のコースニュースなどから、情報を大量に受信し、確認する作業をせまられることなど、様々なことが考えられる。また、インターネットの通信状況の良し悪しや、学生の ICT リテラシーの能力の高さといったことも含まれる。先述した京都大学での調査でも、対面に比べると、オンラインの方がストレスのかかりやすさが高く、集中力の保ちやすさも低いとの回答が多かったようだ（パリハワダナ他 2021：p.27）。

### (4) その他

Ⅱ章の表4のとおり、学生は2名とも、同じ留学生専用の大学寮に滞在していたのであるが、寮にいる留学生はコロナ禍以前に比べ大幅に減少し<sup>(9)</sup>、また、感染予防のため、同じ寮にいるにも関わらず、直接会うことはほとんどなかったようだ。そのため、学生同士交流することはなかなかできなかったが、このクラスは学生が2名だけだったことから、時間的に余裕もあり、アットホームな雰囲気であったため、授業中に少し脱線して、ちょっとした雑談がしやすい環境にあった。また、予想外の世界的感染爆発が起こり、お互いオンラインをせざるを得ない状況下におかれたことも、教員と学生が強い連帯感のようなものを共有できたように感じる。他大学では、授業開始前、学生が全員揃うまでの間、雑談時間を設けたところ、教員と学生、学生同士のラポールの形成に役立ったことが報告されている（斉木他 2021：p.71）。

Zoom ではカメラのオンとオフを自分で設定することができるが、オンにするかオフにするかでも、授業のストレスの度合いが変わるように感じた。幸い、学生は2名とも授業中ずっとカメラをオンにしていたので、顔の表情や、今何をしているかが、ある程度把握できたと思う。

そして、どちらも、国内に滞在していたことから、時差なしで授業を行うことができた。国外に学生がいる場合、アジアでは数時間の時差で済むが、ヨーロッパやアメリカなどでは、かなりの時差があるため、生活リズム全体が崩れ、心身の不調にも繋がってしまうので、その点ではよかったと思う。また、自分の部屋から授業に参加できたことも、対面に比べて、大幅な遅刻や欠席を防ぐ要因になったのではないだろうか。一方で、教室とは違い、プライベートな空間にいて、学生がリラックスしすぎてしまい、姿勢が大きく崩れたり、周りの色々なものが目に入って、気が散って集中力を保つことが難しかったこともあった。

オンラインに変更となり、できるだけ学生の負担を減らしたいと、極力授業の受講のみで完結させられるようコースを組み立てたのではあるが、漢字や語彙が弱かったため、前の週に学

習したことを確認する復習クイズを実施したり、課題をある程度は課したりした方がよかったのかもしれない。オンライン授業を行うにあたり、予習や課題をうまく組み合わせることが効果的だという報告もあり（河内他 2021；早川 2020；関・香川 2021）、それらを参考にして、今後の授業運営に活かしたい。

## V. おわりに

以上、昨年度 2020 年度第 1 学期の JEP4 読解についての報告を行った。学生・教員ともにこの未曾有の非常事態の中、急遽オンライン授業を行うこととなったが、そのことが結果的に、當作の言う「21 世紀を生きるために必要な能力の 1 つである ICT の能力も言語のクラスで養うことができ、21 世紀が要求する言語使用者を作ることが可能になる」（當作 2019：p.6）ことに、少しではあるが繋がったのかもしれない。

残念ながら、第 2 学期（9 月～1 月）は、新たな交換留学生の受け入れを中止することが決定したため、JEP 全てのレベル・科目のクラスが不開講となってしまう、結果的に、JEP4 読解を担当できたのは 1 学期のみとなってしまった。

今年度 2021 年は、4 月から JEP が再び開講できることとなったが、学生は日本に入国できないため、自国にてオンライン授業を受講するという体制となった。また、今年度は JEP4 とは違うレベル・科目の担当となったが、こちらについては、また機会があれば、改めて報告したい。

今後のコロナの感染状況にもよるが、現在のように国外から学生が受講する授業体制がこのまま続くかもしれない。もしくは、対面とオンラインどちらの受講者にも対応したハイブリッド授業や、対面授業が再開になった後でも、対面とオンラインの手法を組み合わせたブレンディッド授業を行う可能性もある。誰も予測し得なかった 2020 年の世界的な感染爆発により、ICT を活用した日本語教育が急速に進み、教師は様々な状況下におかれた学習者・環境・ツールなどに臨機応変に対応する能力が求められることとなった。今回明らかになった成果と課題を踏まえ、今後も実践を積み重ねながら、効果的な授業が行えるよう、日々改善に努めたい。

## 後注

- (1) 「日本語教育スタンダード (<https://jfstandard.jp/publicdata/ja/render.do#sec03>)」のサイトより CEFR（レベルごと）と JFS（カテゴリーごと）の一覧表をダウンロードし、それを参照した。
- (2) 次の学期に自動的に上のクラスに上がれるとは限らず、学期開始前のプレイメントテストによって、所属クラスが判定される。
- (3) 学生のパソコンの調子が悪くなった際の状況確認や、欠席・遅刻連絡などもメールに比べてお互い気軽にすぐ連絡することが可能なため、その場合はとても重宝した。
- (4) 「NHK そなえる防災」(<https://www.nhk.or.jp/sonae>) 動画「熱中症とは？」「普段からできる熱中症対策」（参照 2020-7-21）
- (5) 著作物の教育利用については、「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」サイト (<https://forum.sartras.or.jp/info/005/>) に詳しい。
- (6) 授業は 1 講時（9:00-10:30）が視聴解、2 講時（10:45-12:15）が読解という順番であったため、

学期末アンケートもそれぞれの授業内で実施した。しかし、学生にとっては連続した授業という感覚であったと思われる、視聴解と共通する内容（特にオンライン授業でよかったこと・大変だったこと）は、読解のアンケートでは省いて書いていると考えられる。

- (7) 図やグラフなどを描いて説明する場合には、Zoom にはホワイトボード機能があるが、マウスでの操作ではうまく描けず、ほとんど使うことがなかった。その代わりに、100 円均一の店で購入した小さいホワイトボードにマーカーで図などを描き、カメラからそれを学生に見せるというアナログな方法を取ったのだが、意外に使えると感じた。
- (8) 全員の前で誤用を指摘されたくないという性格の学生には、個別にチャットでフィードバックをすることが可能である。藤井もチャットの有効活用法について述べている（藤井 2021：p.70）。
- (9) 先学期は 110 名学生がいたが、今学期は 40 名しかいないので、とても寂しい、と学生が言っていた。

## 参考文献

- オックスフォード・レベッカ L. (1994)『言語学習ストラテジー 外国語教師が知っておかねばならないこと』凡人社
- 河内彩香他 (2021)「教員と学習者はオンライン授業をどうとらえたか－Zoom と Google Classroom を併用した日本語教育－」『多文化社会と言語教育』1
- 久保るみ (2019)「龍谷大学交換留学生のための日本語プログラム "JEP Kyoto" JEP4「読解」コースデザインと成果」『龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報』第 28 号
- 小松知子・福田えり (2016)「龍谷大学交換留学生のための日本語プログラム "JEP Kyoto"－プログラム開発と「ビジネス日本語」コースデザイン－」国際交流基金「日本語教育通信日本語教育レポート」第 33 回 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/report/201611.html> (参照 2022-1-19)
- 齊木ゆかり他 (2021)「初級日本語オンライン授業の一試案：オンライン授業でできることは何か」『東海大学紀要国際教育センター』3 (1) p.71
- 西村尚他 (2021)「緊急時におけるオンライン授業の取り組み－マラヤ大学予備教育センター日本留学特別コースでの実践例と調査報告－」『国際交流基金日本語教育紀要』第 17 号 p.118
- 當作靖彦 (2019)「ネットワーク時代の言語教育・言語学習」
- 李在鎬編『ICT × 日本語教育－情報通信技術を利用した日本語教育の理論と実践』當作靖彦監修 ひつじ書房
- 羽吹幸他 (2021)「課題遂行型教材「JFS 読解活動集」の開発と評価」『国際交流基金日本語教育紀要』第 17 号
- 早川杏子 (2020)「日本語学習者に対するオンライン読解授業の実践事例－初中級レベルの日本語学習者を対象に－」『ことばの科学』第 34 号
- バリハワダナ ルチラ他 (2021)「オンライン授業での日本語能力上達を左右する要因－2020 年度前期の京都大学日本語科目履修者及び担当教員に対するアンケート調査を基に－」『京都大学国際高等教育院紀要』第 4 号
- 藤井みゆき (2021)「メディア授業による日本語学習者の学び」『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』19 p.70

- 三原龍志（2018）「JEP Kyoto プログラムの開発とその経緯」『龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報』第27号
- 関ソラ・香川由紀子（2021）「4技能を統合した中上級読解授業のオンライン実施とその結果－2020年度春学期名古屋大学国際言語センター「NP5 読解表現」の実践報告－」『日本語・日本文化論集』第28号 p.171
- 山本菜穂子（2021）「日本語学習者の読解文における文章構造の理解の過程－ピア・ラーニングによるアウトラインの捉え方を通して」『南山大学外国人留学生別科紀要』 pp.70-73

## 参考教材

国際交流基金「ペットの気持ちを書いた詩を読む」

みんなの教材サイト <https://minnanokyozei.jp/kyozai/material/DJR00032/ja/render.do>（参照 2020-6-8）

国際交流基金「留学についての相談のメールを読む」

みんなの教材サイト <https://minnanokyozei.jp/kyozai/material/DJR00033/ja/render.do>（参照 2020-6-22）

国際交流基金「AIの可能性について書かれた雑誌記事を読む」

みんなの教材サイト <https://minnanokyozei.jp/kyozai/material/DJR00037/ja/render.do>（参照 2020-7-25）

## 出典

環境省・厚生労働省（2020）「熱中症予防×コロナ感染防止で新しい生活様式を健康に！」

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000642298.pdf>（参照 2020-7-20）

鴻池剛（2014）「誤解」『鴻池剛と猫のぼんた ニャアアアン！』

コミックエッセイ劇場 <https://www.comic-essay.com/episode/read/214>（参考 2020-7-6）

※ 2022年1月現在、上記 URL では他のマンガを掲載中だが、作者のブログサイト「ウッドブック」（<https://tsuyoshiwood.com/archives/1840/>）にて閲覧可能である。

深谷かほる（2017）「第三十五話 赤の他人」『夜廻り猫』

モアイ <http://www.moe.jp/comic/yomawarineco/35>（参照 2020-7-6）

琉球新報デジタルサービス（2020-5-1）「スーパーで感染を防ぐには？」

<https://ryukyushimpo.jp/news/entry-1115912.html>（参照 2020-5-17）